

台北教育大学にみられる美術教育改組の一例

上原 一明・羅 森豪*・福田 隆眞

An Example of Art Education Reorganization by National Taipei University of Education

UEHARA Kazuaki, ROU Shin-Hao*, FUKUDA Takamasa

(Received July 20, 2007)

キーワード：台湾、芸術、美術教育、教育大学、カリキュラム

はじめに

1990年代の台湾は、新時代の幕開けであった。戒嚴令の解除、本省人による初の台湾総統、民主化の波、国民による大統領直接選挙の実現等、過去の抑圧された国民党独裁政権時代には想像もつかないほどの変革を成し遂げた。所謂「台湾経験」は、「新台湾人」という新しい概念を構築した。21世紀に入り、これまで野党であった民主進歩党が政権を担うようになると、政治的な変革と同時に教育界の動向にも大きな変化が表れてきた。正統な中国であると誇示する国民党・中華民国政府の中華思想教育に代わって、台湾独自の、特に歴史教育の面における事実にも則した、現代に生きる人民にとって関係性のある教育内容へと移行している。

その様な中、台湾の首都・台北市にある台北教育大学の現代社会に対応した、大学としての取り組みと大学改組についての紹介と展望を記する。

1. 台北教育大学沿革

台北教育大学は、1895年の日本統治時代の芝山巖学堂から始まり、翌年台湾総督府国語学校、更に1920年台湾総督府台北師範学校と改められた。1945年、台湾の中華民国復帰後、台湾省立台北師範学校、1961年台湾省立台北師範専科学校、1987年台湾省立台北師範学院に昇格し、1991年国立台北師範学院、2005年国立台北教育大学に改められた。創設以来112年の歴史を有する台北教育大学はこれまで十数万人もの卒業生を輩出し、台湾国内外はもとより教育、文化、芸術、政治経済各界に多くの優秀な人材を担ってきた。

現在台北教育大学は学長と副学長を置き、教育学部、人文藝術学部、理学部及び若干の行政補助単位並びに各種委員会と学務会議を持っている。大学は単科大学の教育大学ではなく、総合大学化し、教育学部、人文芸術学部、理学部の3学部を設置している。各学部の内容構成は次の通りである。

*台湾・国立台北教育大学教授

教育学部は、教育政策と管理研究所・課程と教学研究部・国民教育学科・幼児教育学科・特殊教育学科・心理と諮商学科・社会科教育学科・生命教育と健康促進研究所がある。人文芸術学部は、語文と創作学科・児童英語教育学科・芸術学科・音楽学科・台湾文学研究所・造形デザイン学科・文芸産業デザインと経営研究所・文教法律研究所・文化産業学科がある。理学部は、教育傳播と科技研究所・数学情報教育学科・数学教育研究所・自然科学教育学科・体育学科・情報科学学科・デジタルコンテンツ学科がある。

このように台北教育大学は、単科大学から総合大学へと改組が行われた。その主な理由は、台湾の少子化による小学校の教員の削減のため、教員への就職が困難になったことがあげられる。

2. 美術教育の新しい教育課程

単科大学から総合化に改組したことによって、各専門分野はその教育課程を改革した。ここでは「国立台北教育大学九十五年度系所評鑑 藝術學系轉型計畫書」を基に、旧来の美術と美術教育であった現在の人文芸術学部芸術学科と大学院修士課程の教育課程を具体的に紹介し、その内容を述べる。

人文芸術学部は、百年の歴史の中で培われてきた競争力のある教育課程を軸に、大学教育改革を踏まえた教育内容と各専門分野の能力向上と、芸術知識及び経済行為の方法、芸術文化と創作能力の思惟発展の掌握、芸術創意とサービス産業の原理と応用等、様々な芸術産業分野に精通した学生の育成をめざす。学生は芸術教育・芸術創作・芸術理論と評論・創作工芸の四分野の中から一つを主要分野とし、その他関心のある分野や様々な要求に対応できる選択科目を用意し、学生に対する将来の発展性と人材を育成する。

台北教育大学と国立台湾大学は、単位交換の協定を結んでおり、学生は台湾大学の授業も自由に履修することが出来る。現在本学部と協定を結んでいる台湾大学の学部は、哲学学部、歴史学部、演劇学部である。

芸術学科 課程受講科目名

専門課程 (90 単位)

1、共通基礎分野 (必修 20)

科目名	英文	修別
創造基礎	Creativity:A Foundation	必
人間、環境と芸術	People,Place and Arts	必
形式基礎	Forms	必
映像基礎	Image:A Foundation	必
現代芸術概論	Introduction to Contemporary Art	必
作品・テキストと朗読	Work,Text and Reading	必
素材と表現	Material and Expression	必
立体造形	Three Dimensional Creation	必

2、専攻分野 40 単位（4 分野中選択必修が 1）

(一) 芸術教育分野（必修 20 単位、選択必修 20 単位）

芸術教育の思潮（一）、（二）	Trends and Thoughts in Arts Education I, II	必
発展理論と終身芸術教育	Developmental Theory and Lifelong Arts Education	必
多元芸術教育参観	Field Observation in Multi-Art Education Curriculum	必
芸術教学システム・デザイン	Art Educational System Design	必
遊芸教育	Edu-Tainment:The Arts of Play	必
芸術教育実習（一）、（二）	Practicum I, II	必
芸術教育実習	Practicum	必
卒展の演出と普及	Graduation Project(Integrated)	必
自主研究	Independent Study in Art Education	必
芸術社会学	Sociology of Art	選
芸術統整課程：デザインと評価	Integrated Curriculum in Arts	選
演劇教育（一）、（二）	Performing Arts Education I、II	選
設計芸術教育（一）、（二）	Applied Art Education I、II	選
美学と芸術哲学	Aesthetics & Artistic Philosophy	選
芸術教育と芸術治療（一）、（二）	Arts Education and Arts Therapy I、II	選
空間教育専題	Art Education in Environment	選
芸術教育伝播とメディア	Communication and Media in Arts Education	選
美術・博物館と芸術教育	Art Museums and Arts Education	選
芸術 NPO/NGO 概論（一）、（二）	Introduction to NPO/NGO in the Arts I, II	選
芸術教育と文化現象	Arts Education and Cultural Studies	選
国際芸術通信	International Arts News	選
芸術教育サービス	Arts Education as Service: Pracrical Aspects	選

(二) 芸術創作分野（必修 4 単位、選択必修 36 単位）

卒業制作展	Graduation Project(Integrated)	必
卒業計画	Graduation Project(Individualized)	必
現代素描（一）、（二）	Modern Drawing I、II	選
コンピューター画像処理	Image Processing	選
観察と創作	To See and to Paint	選
作品からテキストへ（一）、（二）	From Work to Text I、II	選
絵画研究（一）、（二）	Studies in Painting I、II	選
ミクストメディア研究（一）、（二）	Studies with Multi-Media I、II	選
デジタル・イメージ研究（一）、（二）	Digital Imaging Studio I、II	選

コンピューター・アニメーション (一)、(二)	Computer Animation I、II	選
文字造形とデザイン	Type Setting and Design	選
現代議題と創作 (一) ~ (四)	Contemporary Issues in Art Making I~IV	選
資格伝達デザイン	Visual Communication Design	選
イメージの流れ	Image as String	選
自主制作 (一) ~ (四)	Individual Project I~IV	選

(三) 芸術理論と評論領域 (必修 26 単位、選択必修 14 単位)

西洋芸術史	History of Western Art	必
中国芸術史	History of Chinese Art	必
芸術社会学	Sociology and Art	必
現代思潮	Trends in Contemporary Thought	必
越領域芸術研究	Cross-boundary Arts Study	必
芸術文化人類学	Cultural Anthropology in Art	必
芸術批評理論と歴史	Art Criticism Theory and History	必
芸術理論	Art Theory: Concepts and Problems	必
芸術評論写作	Writing Art Criticism	必
卒業論文	Graduation Thesis	必
卒業制作展	Graduation Project(Integrated)	必
国際芸術通信	International Arts News	選
美学と芸術哲学	Aesthetics & Artistic Philosophy	選
台湾芸術史	History of Taiwanese Art	選
台湾芸術体系	System of Art Criticism in Taiwan	選
芸術市場投資と経営	Art Market Investment and Management	選
芸術商品開発	Art Commodity	選
青年文化	Youth Sub-Culture	選
芸術心理学と記号学	Psychology and Semiology of Art	選
産官学相互模式	Industrial, Governmental and Academic Interaction Pattern	選
文化創意産業政策	Policy of Cultural and Creative Industries	選
台湾現代芸術	Contemporary	選
流行文化	Popular Culture	選
芸術と文化経済学	Art and Culture Economiology	選
芸術史	Selected Topics in Art History	選
芸術祭企画と経営	Art Festivals Planning and Management	選

(四) 創作工芸領域 (必修4単位、選択必修36単位)

卒業制作展	Graduation Project(Integrated)	必
卒業計画	Graduation Project(Individualized)	必
立体造形 (一)、(二)	Three Dimensional Creation I、II	選
創意と表現 (一)、(二)	Creation and Expression I、II	選
創作工芸研究 (一)、(二)	Creative Craft Research and Development I、II	選
ガラス創作工作室 (一)～(四)	Glass Workshop I～IV	選
陶芸創作工作室 (一)～(四)	Ceramic Workshop I～IV	選
工芸と生活美学	Craft and the Art of Living	選
工芸史	History of Craft	選
ジュエリー・デザイン工作室	Jewelry Design Workshop	選
テーマ制作 (一)、(二)	Special Topic in Production I、II	選
流行工芸	Popular Craft	選
体験と価値	Experience and Values	選
総合工芸工作室	Comprehensive Craft Workshop	選
文化交流実習	Cultural Exchange and Internship	選
産学共同工場実習	Industrial and Academic Cooperation and Factory Internship	選
文化産品マーケティング	Marketing in Cultural Products	選
芸術民宿空間計画経営	Artistic Planning and Management for Bed and Breakfast Accomodation	選
芸術商店企画と経営	Art Shops Planning and Management	選

以上は学部教育課程での授業科目である。

(一) の芸術教育分野の必修単位が 20 単位と多く設定している。その内容は、学校教育のみを教育の対象とするのではなく、社会教育、生涯教育もその対象とし、芸術社会学のような領域の広いもの、あるいはメディアや芸術通信といった現代社会に対応しようとしている。

(二) の芸術創作分野ではミクストメディアとして、表現媒体を総合的に捉えていることが特徴である。

(三) の芸術理論と評論領域も必修単位が 26 単位と多く設定している。その内容は芸術理論、芸術史に加えて芸術市場や流行文化、文化経済学のような現実的で実践的な授業科目を取り入れているところが特徴である。

大学院芸術学修士課程 課程構造と教科名

専門課程 (芸術教育組選択必修 32 単位、合計 32 単位 / 芸術理論と評論組、芸術創作組、工芸創作組必修 6 単位、選択必修 26 単位、合計 32 単位)

(三) 芸術創作組【必修6単位、選択必修22単位】

大学院修士課程の教育課程では芸術教育の分野を主として、他に芸術理論と評論、芸術

哲学思弁と学術研究	Philosophic Speculation and Academic Research	選
研究方法論	Seminar in Research Methodologies	選
民族誌学フィールドワーク方法	Ethnographic Fieldwork Methods	選
構造的解釈方法	Methods of Constructive Interpretation	選

2、各組その他必修・必修選択科目

(一) 芸術教育組【選択必修26単位】

美術・博物館教育	Issues in Education of Art Museum	選
芸術教育の新証拠	New Evidence for Arts Education Research	選
芸術教育古典研究報告討論	Readings in Arts Education Classics	選
教育民族誌報告討論	Seminar in Educational Ethnography	選
教学系統設計原理	Issues in Educational System Design	選
創意教学研究	Studies in Teaching for Creativity	選
遊芸研究	Seminar in Edutainment Study	選
芸術教育理論と実務研究	Research in Art Education and Art Educational Practices	選
芸術教育専題研究	Issues in Art Education	選
社会芸術教育専題研究	Issues in Social Art Education	選
芸術、教育と文化人類学専題	Art, Education and Cultural Anthropology	選
東アジア青少年文化専題	Adolescent Culture of East Asia	選
芸術社会学専題	Seminar in Sociology of Art	選
台湾近代美術教育史専題	Seminar in History of Art Education in Taiwan	選
芸術治療専題研究	Issues in Art Therapy	選
芸術第三セクター専題	Seminar: The Third Sector in Art	選
共同行動研究法	Partnership Issues in Action Research	選
美学専題研究	Research in Aesthetics	選
文献回顧と歴史研究法	Methods of Literature Review and Historical Study	選
台湾現代芸術生態研究	Studying the Contemporary Art World of Taiwan	選

(二) 芸術理論と評論組【必修6単位、選択必修22単位】

現代芸術理論	Contemporary Art	必
芸術史方法論	Approach to Art History	必
現代芸術批評	Contemporary Art Criticism	必
グローバル・芸術体系の策略	Globalization: Systems of Art and Politics	選

現代台湾サブ・カルチャー	Reseach in Contemporary Taiwanese Sub-cultural Phenomena	選
イメージ・権力・ジェンダー専 題研究	Issues : Image , Pauer and Gender	選
台湾現代芸術生態研究	Studying the Contemporary Art World of Taiwan	選
台湾芸術評論と論述体系研究	Systems of Taiwanese Art Criricism and Publi Dialogue	選
芸術、社会と歴史	Arts,Societies and Histories	選
美学専題研究	Reseach in Aesthetics	選
女性主義と精神分析	Feminist Cultural Theory	選
学部外選修	(Cross-Program Registration)	選
大学外選修	(Cross-School Registration)	選

(三) 芸術創作組【必修6単位、選択必修22単位】

現代芸術理論	Contemporary Art	必
現代芸術史専題研究	Studies in History of Contemporary Art	必
現代芸術批評	Contemporary Art Criticism	必
創作工作室 / メディウムとメ ディア (一) ~ (二)	Studio:Medium and Media I—II	選
創作工作室 / フォーム研究 (一) ~ (二)	Studio:Form Study I—II	選
創作工作室 / 空間研究 (一) ~ (二)	Studio:Art as a Space System I—II	選
創作工作室 / 言語研究 (一) ~ (二)	Studio:Art as a Sign System I—II	選
創作工作室 / 主題研究 (一) ~ (二)	Studio:Thematic Elaboration Study I—II	選
学部外選修	(Cross-Program Registration)	選
大学外選修	(Cross-School Registration)	選

(四) 工芸創作組28単位【必修6単位、選択必修22単位】

台湾文化史	History in Taiwan Culture	必
工芸創作専題研究	Issues in Craft Creation	必
工芸デザイン専題研究	Issues in Craft Design	必
陶芸造形専題研究	Issues: Ceramic Form	選
ガラス創作専題研究	Issues: Glass Creation	選
工芸デザインとコンピューター 絵画	Craft Design and Computer Cartography	選

陶芸釉薬専題研究	Issues: Ceramic Glaze	選
ガラスデザイン専題研究	Issues: Glass Design	選
木工デザイン専題研究	Issues: Woodwork Design	選
陶芸窯専題研究	Issues: Ceramic Kiln	選
ガラス技法専題研究	Issues: Glass Technic	選
木工創作専題研究	Issues: Woodwork Creation	選
木工産業専題研究	Issues: Woodwork Industry	選
産業共同専題研究	Issues: Cooperation between Enterprise and School	選
デザインと製作	Design and Production	選
学部外選修	(Cross-Program Registration)	選
大学外選修	(Cross-School Registration)	選

大学院修士課程の教育課程では芸術教育の分野を主として、他に芸術理論と評論、芸術創作及び工芸創作の分野からなっている。芸術教育の内容も学部と同様に教育対象を幅広く設定している。学校教育の教員のみを養成するのではなく、広く芸術教育に関与する人材育成を目指している。

3、学位論文、専題0単位（必修0単位）

修士論文	Master's Thesis	必
修士専題	Master's Project	必

3. 芸術学系の改革活動

前章までのような教育課程のもとに芸術学科としての教育が進められているが、その他に芸術学科の革新的な活動も行われている。ここではその活動の主なものとして、メトロポリタン美術館の石膏彫刻博物館の活動と、澎湖島での文化創意研究開発センターの二つについて以下に述べる。

一、メトロポリタン美術館の石膏彫刻博物館

古今台湾の芸術創作は本島内でのみ実施・活用されなかったのと比べ、西洋の芸術は人類の英知と精神の活動を世界レベルで謳歌している。それは、芸術の本質と歴史的発展とを探究し、常に我々に人類の芸術創作の意義を伝承し影響を与え続けている。これまでの台湾における西洋芸術史の教授方法は、「写真を見てものを語る」という二次的なものでしかなかった。その主な原因として、台湾は西洋美術作品を間近に見る機会があまりないということがあげられる。メトロポリタン美術館の石膏彫刻は複製品ではあるが、その百年以上の歴史を持つ石膏彫刻及び建築模型は、台湾の学術研究者に西洋美術の立体作品研究の機会を与えてくれる。そのため、メトロポリタン美術館長期貸入により預かった彫刻作

品及び建築模型をベースに、国内の西洋芸術史教学と学術研究の環境を充実させる為、国立台北教育大学にて西洋芸術教育センターを設立する。

計画目標

- (1) メトロポリタン美術館の長期貸入展の彫刻作品及び建築物を基礎とし、国立台北教育大学において、西洋美術芸術教育センターを設立し、台湾の西洋美術史教学と学術研究の環境を整える。
- (2) 西洋美術芸術教育センターと本校は共に連携し、作品のコレクションや社会団体への公開、校内外の重要な資源としての多様な芸術機構と位置付ける。
台湾でこれらの作品の長期貸出展を実現することにより、メトロポリタン美術館との芸術文化交流及び学術研究協力の長期的関係を確立する。

計画内容

1、九十四年度（中華民國曆。西曆 2005 年度）：

- (1) 台湾側の本大学内外の研究者と、メトロポリタン美術館の学芸員による専門研究スタッフを置く。国外からはメトロポリタン美術館の学芸員 3 名を招き、西洋芸術作品の基本的な作品管理法及び整理法を教授して頂く。
- (2) 国内の研究者は台湾に來た作品を元に、大学の芸術教育の発展にどのような形で関係付けるかを探求し、メトロポリタン美術館やニューヨーク大学芸術部の古物修復センターとの相互協力関係形成にも視野に入れる。
- (3) メトロポリタン美術館からの長期借入作品数は、約 80 から 120 点。

2、九十五年度：(2006 年度)

- (1) 研究スタッフはメトロポリタン美術館に赴き、台湾に來る作品の確認と作品修復方法を研究する。
- (2) 研究スタッフは作品の基礎修復を進行させる。
- (3) 作品の運送・保険等の管理。
- (4) 国立台北教育大学は、作品の代替安置場所の確保と、修復場所及び長期展示場所を準備する。

3、九十六～九十七年度：(2007 年度～ 2008 年度)

- (1) 国立台北教育大学芸術館第二期工程、西洋芸術教育センターに関する予算等の進行。
- (2) 大学内の教科課程を長期的に計画し、実務と理論の結合を実証する。
- (3) 展覧作品の研究と修復作業の継続。
- (4) 來台した作品の研究過程を写真や映像として記録し、将来の学術研究と教学の為に活用する。

研究評価

- 1、この西洋芸術教育センターは、国内の小学校、中学校、高校、大学、研究所及び一般家庭に渡る社会の重要な美学教育の場とし、国民の美意識向上に貢献する。
- 2、政府の推進する芸術文化産業計画に合わせ、国内の文化産業に貢献する。

- 3、同センターの成立は、国立台北教育大学の学内文芸の機運を高め、学術的地位の向上と現代社会に寄与する。

二、附属澎湖文化创意研究開発センター設置計画

1、設置趣旨

知的経済活動の時代が到来し、政府による文化創業産業政策が社会責務となった。台北教育大学は教職員及び在學生が一丸となって藝術・科学技術運用等専門性を生かし、社会還元として澎湖島の客足の少ない冬季観光問題を解決していく。同時に国立台北教育大学・附属澎湖文化创意研究開発センターを設立し、同大学開学百年の新しい扉を開く。

2、設置理由

台北師範学校は、日本統治時代の台湾知識人の養成所であり、多くの重要な作家・画家・政治家・音楽家・スポーツ選手を生んだ。台北師範学校は台北教育大学の前身でありその後、台北師専、台北師範学院、台北師範学院を経て現在に至る。澎湖も即ち台湾発展の起源でもあり、文化的な要素は歴史的にみても同等と言える。澎湖は自然にも恵まれ、独特な景勝地や優良農産物も数多く生産されている。

そのため、新たな文化を切り開くべく台北教育大学は、澎湖の貴重な文化を伝承し、リゾート、民宿、健康、観光等様々な要素を結合し、地方の経済を発展させ、生活の向上を図り、台北教育大学全教職員・在學生と澎湖地区の民衆の経済的発展の機会を模索する。「国立台北教育大学附属澎湖文化创意研究開発センター」の誕生である。

3、計画内容及び展望

一、現在進行の計画（民国95年（2006年）10月1日～96年4月30日）

- (1) 員貝小学校の校舎を修繕し、電気水道の補修、インターネット・システムの整備、澎湖県政府に150万NT\$（新台幣ドル）の関係基礎改善費を申請する。
- (2) 学内にて国立台北教育大学附属澎湖文化创意研究開発センターを正式に立ち上げる。（基礎工程は順調に完成。95年11月澎湖行政會議にて決定。）
- (3) 指導の構築、協力体制、システム整備、澎湖観光の創造、澎湖特産物の付加価値向上、国立台北教育大学附属澎湖文化创意研究開発センター維持の為の収入の他、澎湖県政府からの補助金を確保し、教育訓練、市町村交流、地域活動等に充てる。冬季休業は、教師・學生が滞在しながら芸術に関連した活動を行う。澎湖特産品のパッケージを考案し、流通方法や現地の業者と文化的創意概念を分かち合い、初期の具体的計画を立案する。

具体例

a、風水塔：

風水塔頂上：漁船（民族的な呪いの王船ではない）、金錢亀（緑色の元宵団子の販売）、風車、12支（毎年新たに作成し販売）、媽祖（媽祖聖誕祭或は平日販売）、龍、虎、鷹、標識、錨、重要人物、神話の人物（バレンタインデー、クリスマス、中秋節、端午の節句）、キャラクター像。

人物像：

風水塔材質：陶、木材、ガラス、プラスチック、アクリル。

風水塔外型・色：同心円柱（作画、配色、装飾）、ピラミッド型同心円柱（作画、配色、装飾）
透かし彫り四面体（数学用教材用具…ピラミッド積み木…作画、配色、装飾）

風水塔内装：

乾き物：魚、ピーナッツ、蚊取り線香、風茹茶、ヌードル、文石（あられ石）、咕嚕石（珊瑚石）、心豆、月、太陽、星砂…各階独立、上下螺旋状。

飲料：仙人掌醋、アロエ絞り汁…龍型、虎型、鷹型の取っ手…蛇口式開閉。

風水塔文化：魔除、祈祷、祈福、ピラミッドパワー、五行相生。

風水塔付属品：レシピ、命名、縁由、効果、文化的意義。

b、生活地図：

特色のある写真、問題点の回答、心情描写、澎湖に行かなければならない 100 の理由。

c、風の心情：

心中の風、玩風祭り、風狂、皆一緒に風遊び。

澎湖の涼しい風を吸う…アイデア商品：風力交通工具、造形風車、体験（簡単な材料をつかった飛行機大会）、風の文化缶詰。

d、太陽の光を迎える：

強い太陽光線、水遊び、澎湖の暖かい太陽の光につつまれて…アイデア商品：太陽エネルギー交通工具、体験（簡単な材料をつかった飛行機大会）、澎湖の光蠟燭台。

二、中期計画（民国96年（2007年）5月1日～96年12月31日）

- (1) 澎湖県政府に対し 600 万 NT\$ の員貝島及び員貝小学校の基礎建設費を申請し、員貝小学校を国立台北教育大学へ正式に移管する。
- (2) 教師・生徒の優秀作品を基に、演劇・出版・生産などを宣伝し、馬公市場で宴を催す。
- (3) 卒業旅行。
- (4) 新しい住民による営業。
- (5) 加盟体系を整え、澎湖の各業界に文化創意の訓練と、本センター員と同等のディスカウントを提供する。（オフ・シーズンは更に多く）
- (6) 夏季休業・冬季休業はクラス分けをし参加。
- (7) 市町村との交流。
- (8) 現地での創作シンポジウム開催。

三、長期計画（民国97年（2008年）1月1日～）

本センターは常に様々なアイデアや、デジタル・メディア・デザイン工作室や工芸教室、澎湖各業界への文化創意の訓練提供、農産品のパッケージ方法、チェーン店業務、文化に関連した新産品の開発と発展を目標とし、以下の項目を挙げる。

- (1) 創意思考過程及び成立整合学程の計画。
- (2) 創意思考教学及び再学習能力育成の推進。
- (3) 澎湖地区住民及び国立台北教育大学教職員・生徒への充実且つ緻密なデジタル・サービスの提供。
- (4) 相関研究創造力に対する賞与及び商業的量产に対する支持。
- (5) 国立台北教育大学教職員・生徒及び澎湖地区住民の社会に対する意見発表の機会を設ける。
- (6) 文化創意と澎湖の生活の為の連結。
- (7) 文化創意と澎湖の空間活用の為の相互関係。
- (8) 文化創意と澎湖の社会発展の為の協力。
- (9) 文化創意による我々の飽くなき挑戦。

以上はメトロポリタン美術館からの石膏彫刻博物館の設立と、澎湖島での文化創意研究開発センターの活動の概略である。こうした活動は芸術学科独自の取り組みであり、社会教育、社会貢献として位置付けられるものである。

4. 改組からの示唆

以上までに、台北教育大学の最近の改革と美術教育に関わる内容を紹介してきた。これまでのことで、わが国の美術教育、教員養成、教育学部の将来構想に以下のような内容が参考となると考えられる。

1 学校教育からより広い人材育成としての改組

従来、台北教育大学は学校教育のなかでも特に小学校教員養成を主として人材養成を行ってきた。しかし近年の少子化の影響により、学校教育教員の定員削減により教員としての就職が減少してきた。このことにより教育大学のもつ特色を生かした総合大学への改組を実施した。学校教育だけを対象とするのではなく、より広い社会を対象とした人材育成へと教育目的を変更したのである。そのために組織は学部名称から「教育」という文言を削除し、学部も内容的な専門を重視する3学部へと改組したのである。そのことは、教育課程に反映されており、教養的要素と社会的、実践的な教育内容を増やしている。

こうした教育大学の改組は1997年の時点でインドネシアで試行されていた。インドネシアでも当時、学校教育の教員の就職率が低下したためジャカルタ教育大学、ジョクジャカルタ教育大学では単科大学から総合化し、専門学部へ改組し州立大学へと改革を行った。

2 大学の社会貢献として美術教育

台北教育大学の美術教育では前述のように、メトロポリタン美術館からの彫刻作品の貸与によって作品の社会公開を行っている。また、澎湖島に芸術センターを開設し作品展等の活動によって地域との連携を深めている。さらに美術の学生は台北市内において学生作品の社会的理解のために学生作品の販売をも行っている。こうしたことは学生の活動に社会的に理解をえて、社会貢献に繋がるものである。

3 教養的社会的人材育成と教員養成

台北教育大学の教育課程では、基本的に学校教員の養成を目指すものであるが、教育内容には教養的要素や社会的に現実的な内容を含めたものとなっている。このことは学校教員の資質に関わることであるが、学校教育だけを対象とした実践経験を積み重ねる方法とは異なった方法であると考えられる。学校を特殊な社会として設定するのではなく現実社会の一部であることを前提として、社会的に有能な人材育成を目指していると考えられる。

参考文献

- ・羅森豪編 「国立台北教育大学九十五年度系所評鑑 藝術學系轉型計畫書」
台北教育大学 2006
- ・羅森豪編 「国立台北教育大学九十五年度系所評鑑 藝術學系轉型計畫書」付録
台北教育大学 2006
- ・福田隆眞「インドネシアの教員養成における美術教育カリキュラム」
山口大学附属教育実践総合センター研究紀要第9号 1998